品質・
安全対策

The Increasing Presence of Printing & Printing Inspection Technology

食品表示の一元化と機能性表示導入で プレゼンス高まる印字・印字検査技術

編集部

食品表示が大きな潮目を迎えている。わかりやすい表示制度を目指した「食品表示法」の施行が目前に控えている。昨年6月に公布された同法では、複雑を極めるJAS法、食品衛生法、健康増進法の三法に分かれていた表示制度の一本化が折り込まれた。加えて現行は任意の栄養成分表示だが、包装された全ての加工食品と事業者に原則として義務付けられるようになる。2015年4月からの施行を目指している。

もう一つの大きな話題が、食品機能性表示制度導入の動きだ。同法は、いわゆる健康食品等の加工食品及び農林水産物に関し、企業等の責任において科学的根拠をもとに機能性を表示できる新たな方策で、昨年より検討が開始になり、今秋までに結論を得た上で2015年4月より実施することとしている。

本稿では、食品表示の大きな転換期を迎えつつある現状を鑑み、生産/流通管理システムの構築において鍵を握る印字装置、ラベラー、そして食の機能性と安全性を確保する検査装置などを紹介していく。

食品表示一元化に向けた新食品表示法

政府は昨春の閣議で、現在3つに分かれている食品表示関連の法律を一つにまとめる「食品表示法案」を決定、15年の春にも施行の見通しとなっている。

食品表示のルールはこれまで、JAS法、食品衛生法、健康増進法の3つに分散しており、それぞれの法は目的もバラバラであることから、分かりにくいと指摘されていた。一つにまとめることで、消費者、事業者にとって分かりやすい表示になることが期待される。

図1　食品表示法案の骨格